

第65回NHK杯全国高校放送コンテストについて

- 1 開催日：平成30年7月24日（火）～7月26日（木） 3日間
- 2 開催地：国立オリンピック記念青少年総合センター・NHKホール
- 3 各部門：①アナウンス②朗読③ラジオドキュメント④テレビドキュメント⑤創作ラジオドラマ
⑥創作テレビドラマ
- 4 参加状況：全国大会参加校数 533校 都道府県大会参加校数 1,633校
※アナウンス部門参加者 294名 都道府県大会参加数 4,015名
- 5 主催者：全国放送教育研究会連盟・NHK（NHK杯全国高校放送コンテスト委員会）
- 6 入賞結果

部門	学校名・個人名	成績
アナウンス	大分舞鶴高等学校3年 橋本 由紀	優勝

※大分県勢では、平成15年以来、15年ぶりの優勝

8月13日（月）大分合同新聞夕刊掲載

夢前進 橋本さん（舞鶴）アナウンス部門V

2018/08/13 15:30

全国高校放送コンテスト

大分市の大分舞鶴高校放送部3年の橋本由紀さん（18）が第65回NHK杯全国高校放送コンテスト（東京都・7月24～26日）のアナウンス部門で優勝した。「伝えることで人を感動させたい」とアナウンサーを夢見て、1年から目指してきた大舞台。363字の読み原稿を堂々とマイクに乗せ審査員の胸を打った。「支えてくれた人たちに感謝したい。頑張ってきたよかった」と目を輝かせた。

「人の心に届けたい」

アナウンス部門は各都道府県大会を突破した294人がエントリー。自作の原稿を1分30秒以内で読み上げるルールで、文章表現や発声、聞き手への伝わり方などを審査した。

橋本さんは、準決勝まで進んだ2年の時に続いて2回目の全国大会。同校ラグビー部OBが大学時代に経験したドラマチックな試合を取り上げ、競技の魅力を語った。県内の優勝者は2003年以来、15年ぶり。

持ち味のはつらつとした声を生かすため、原稿作りでは言葉のリズムや読みやすさに注意し、一言一句に悩んだという。発声は「伝えたい部分を引き立てるため、強調しない部分もつくれた」。他校に転動した前顧問らのアドバイスも受けながら、間の空け方や表情なども工夫した。

目標はナレーションやニュースを担当するアナウンサー。「読み上げることは誰にでもできるけど、人の心に届けることは簡単じゃない」。伝えることの喜びと難しさを、今大会でも学んだ。

小学校の頃から朗読大会に出るなど、声を発することが好きだったという。美しい日本語を扱うアナウンサーに憧れ、高校から放送部に入った。

夢への階段を一步上った18歳。「世の中は知らないことばかり。自分の感情を込められるように、これからいろんな勉強をしていきたい」と声を弾ませた。



全国高校放送コンテストのアナウンス部門で優勝した大分舞鶴高校3年の橋本由紀さん。「支えてくれたみんなに感謝したい」=大分市

第42回全国高等学校総合文化祭（2018信州総文祭）について

- 1 開催日：平成30年8月7日（火）～8月11日（土） 5日間
- 2 開催地：長野県内17市町
- 3 参加部門：①パレード②合唱③吹奏楽④日本音楽⑤吟詠剣詩舞⑥郷土芸能⑦マーチングバンド・バトントワリング⑧美術・工芸⑨書道⑩写真⑪放送⑫囲碁⑬将棋⑭弁論⑮小倉百人一首かるた⑯新聞⑰文芸⑱自然科学⑲ボランティア
- 4 参加状況：31校317名が参加
- 5 入賞結果

	区分	部門	学校名・団体名・個人名	成績
1	団体	郷土芸能	由布高校	文化庁長官賞優秀賞
2		自然科学（化学）	大分上野丘高校化学部	奨励賞
3		パレード（バトントワリング）	大分東明高校	グッドパレード賞
4		バトントワリング	大分東明高校	講評者特別賞
5	個人	書道	大分南高校 古賀 桃華	特別賞
6		写真	大分鶴崎高校 津高 凜優	奨励賞
7		放送（アナウンス） （朗読）	大分舞鶴高校 橋本 由紀	優秀賞
			大分高校 羽田野 愛	審査員特別賞
8	弁論	大分高校 藤島 聡之介	優良賞	
		別府溝部学園高校 永留 圭大		

由布高校 郷土芸能部

